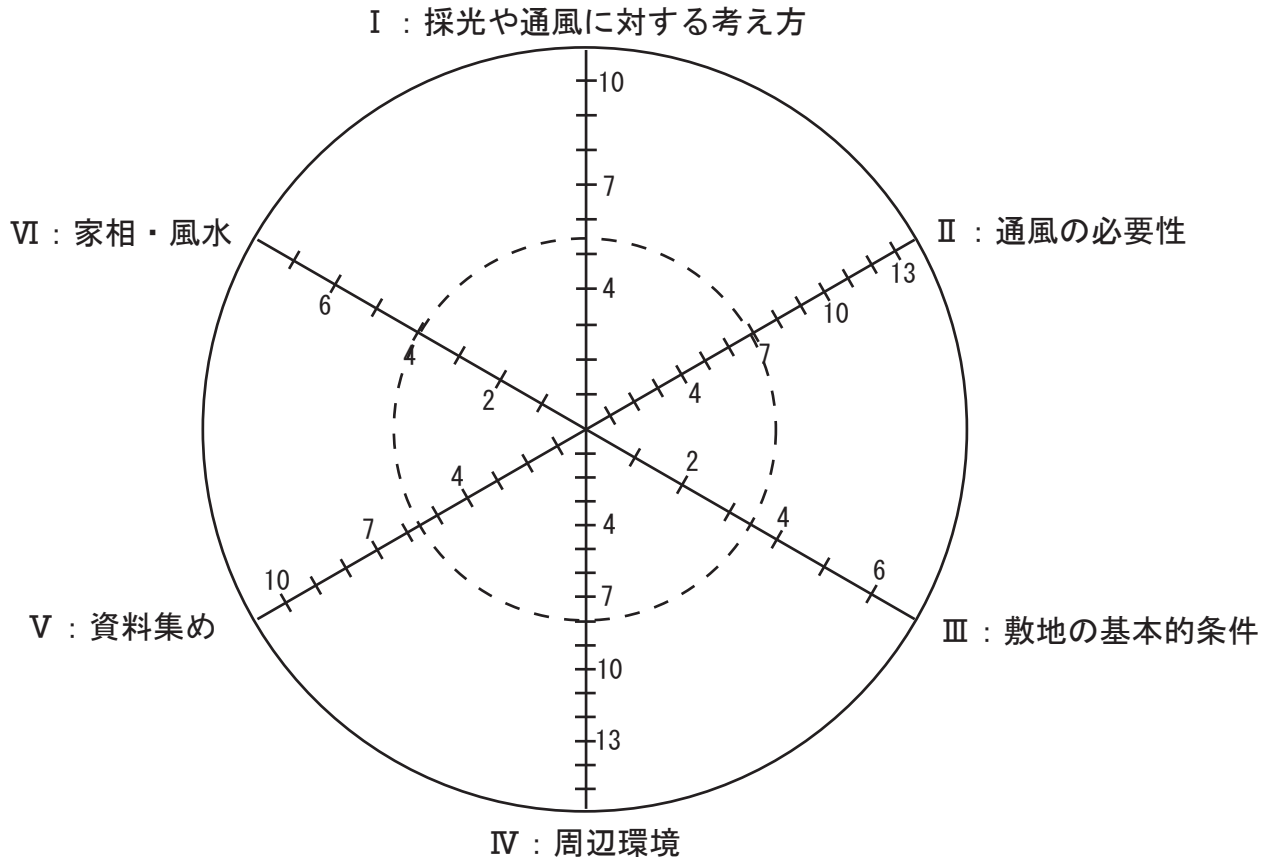


第7回「土地と方位の関わり」



【チェックポイント】

I : 採光や通風に対する考え方

文明の利器を用いた健康で快適な暮らしを否定するわけではありませんが、頼りにし過ぎてはいけません。あくまでも補助的な役割にとどめておきたいものです。そのためにも、なるべくお世話にならずに済む土地を。

II : 通風の必要性

風通しがよいと、どのようなメリットがあるのか。心地よく感じさせたり、家の中にもったイヤな臭いを追い出してくれるという働きだけでなく、洗濯物や動植物にも影響を与えます。

III : 敷地の基本的条件

風通しは建物の向きだけでなく、周囲の建物の密集度とも関連があります。なるべく風通しのよい条件の地区で、かつ風をうまく呼び込める向きや形状の土地を探しましょう。

IV : 周辺環境

高くて大きな建物は風を妨げるだけでなく、流れを複雑にしたり、突風をつくり出したりもします。一方、風は思いも寄らないものを運んでくることもあるので、風の流れがあればよいというものでもありません。

V : 資料集め

風は天候や季節によって向きや強さが変わります。長年にわたる観測記録や、実際に住んでいる人の経験は、とても有力な情報です。面倒がらずに調べましょう。

VI : 家相・風水

家相や風水は、統計学や歴史学。うまく利用すれば、現代社会でも役に立ちます。「家相・風水」に関する書籍は数多くありますが、なかには根拠のないものもあるので上手に取捨選択してください。

【傾向と対策】

※ I ~ VI どの項目でも、点数が多いほど自然環境を大切に考えたいという傾向を示唆しています。

風の出入りをシャットアウトした閉じた暮らしは、冬の寒さから身を守るには適していますが、夏の暑さに対してはエアコンに頼るしかありません。

その点風通しのよい土地は、必要に応じて風の流れを利用することができます。

自然と対峙するのではなく、ケースバイケースで柔軟に対応できる暮らし方を目指してください。